



(4)



(171)×(21)×3 081

(1)は、上端・下端ともに折損。左右両側面は原形をとどめる。裏面は裂けている。一字目も下端から上に向かって削られ、削り残りの状態である。三文字目の門構えはカギ状に書する字体か。六文字目は門構えの残画と思われる墨痕がある。歴名簡の一部か。(2)は、上端が一部欠損するが、四周原形をとどめる。二文字目と三文字目の間は欠損、もとは文字があつた可能性もある。四文字目「薦」の字体は「薦」である。二尺四寸の薦に付けた荷札か保管用の付札であろう。(3)は、左側面割れ。(4)は、上端および右側面は原形をとどめる。下端は折損、左側面は割れ。下端部に墨痕が確認できる。

9 関係文献

明日香村教育委員会『明日香村遺跡調査概報 平成一二年度』(二〇〇二年刊行予定)

(1) 7・9 相原嘉之、8 山下信一郎(奈良文化財研究所)

奈良国立文化財研究所

『平城京木簡二―長屋王家木簡二―』の刊行

長屋王家木簡の正式報告書の第二冊目、『平城京木簡二―長屋王家木簡二―』(奈良国立文化財研究所史料第五三冊)が刊行された。本書はいわゆる木簡溝のうち、TC―一地区という最も木簡の出土が濃密な地域を対象とし、二八〇〇点の木簡を収録している。『平城京木簡二』同様に、高精細印刷を駆使して原寸大の写真により報告している。さらに一部の木簡については、高解像度の赤外線デジタル画像データも併せて掲載した。

本報告書作成過程で判明した接続もあり、釈文もより正確を期している。B4判・本文二〇六頁、別冊解説・A5判五二六頁。

なお、発売は吉川弘文館から。頒価は四七〇〇円(税別)。